

立板古をつくろう！

立板古って何ですか？

立板古（たてばんこ）は、切って組み立てられる錦絵（にしきえ）です。今で言うペーパークラフトのことです。江戸時代は、木版印刷物のことを板行・版行（はんこう）といったことから「立」てる「板古（はんこ）」を「立板古」と呼ぶようになりました。「組上灯籠（くみあげとうろう）」「切組灯籠（きりくみとうろう）」とも呼ばれます。

いつ誰がつくったのですか？

立板古は江戸時代から明治時代にかけてつくられ、流行しました。「八犬伝悪猫退治の段（はっけんでんあくびょうたいじのだん）」は、長谷川小信（はせがわこのぶ）という大坂の浮世絵師がつくりました。印刷・出版は大坂新町の鈴木利兵衛です。

何が書いてあるのですか？

江戸時代に書かれた『南総里見八犬伝』の一場面が描かれています。八犬士のひとりである礼の玉を持つ犬村大角（いぬむらだいかく）が父に化けた怪猫を退治する場面です。ひっくり返った人物、八犬士のポーズ、化猫の仕掛けなど歌舞伎の舞台を見ているかのようなようです。八犬伝は人気があったため多くの場面が歌舞伎で上演され、錦絵になったので、そのスタイルで描かれています。

難しそうだけど初めてでも作れますか？

初めてでも作れます。模様をあわせて組み立てます。難しいなと思ったら「立板古のつくりかた」を見てください。のりしろは少しずれているところがあるので、あわせながら好きなように楽しくつくりましょう。大人の人がつくるときは約1時間かかります。必要なものは、紙、はさみ、のり、カッター、厚紙です。両面テープ、セロハンテープ、鉛筆もあると便利です。